



環境省

# 子どもの健康と環境に 関する統計集

Statistics Data Children's Environmental Health

エコチル調査



Japan



Eco & Child

Study

子ども

健康

環境

作成：環境省環境保健部環境リスク評価室



# 子どもの健康と環境に 関する統計集

---

Statistics Data on Children's  
Environmental Health

## I.保健に関する統計

## 出生時体重

(1)	年次別、出生時体重	10
(2)	都道府県別、出生時の平均体重(平成19年)	12
(3)	都道府県別、2,500g未満の出生割合(平成19年)	13

## 出生性比

(4)	年次別、出生性比	14
(5)	都道府県別、出生性比(平成19年)	15

## 生殖補助医療

(6)	年次別、生殖補助医療による出生児数	16
-----	-------------------	----

## 双子出産の割合

(7)	年次別、分娩総数に対する双子出産の割合	16
(8)	都道府県別、分娩総数に対する双子出産の割合(平成19年)	17

## 受療率

(9)	年次別、年齢階級別、受療率(人口10万対)	18
-----	-----------------------	----

## 先天異常

(10)	外表奇形の発生頻度(平成18年度)	22
(11)	年次別、先天異常の発生頻度	23
(12)	年次別、新生児外科の症例数	26

## 学校保健

(13)	年次別、喘息の者の割合	28
(14)	年次別、心電図異常の者の割合	28
(15)	年次別、尿糖検出の者の割合	29
(16)	年次別、腎臓疾患の者の割合	30
(17)	年次別、肥満傾向児の出現率	31
(18)	年次別、痩身傾向児の出現率	31
(19)	都道府県別、喘息の者の割合(平成19年度)	32
(20)	都道府県別、アトピー性皮膚炎の者の割合(平成19年度)	33
(21)	都道府県別、心電図異常の者の割合(平成19年度)	34
(22)	都道府県別、肥満傾向児の出現率(平成19年度)	35
(23)	都道府県別、痩身傾向児の出現率(平成19年度)	36
(24)	年齢別、疾病・異常被患率等(平成19年度)	37
(25)	都市階級別、疾病・異常被患率等(平成19年度)	38

## 21世紀出生児縦断調査

(26)	1年間に医療機関にかかった主な病気やけがの変化	40
(27)	兄弟構成の変化	42
(28)	テレビを見る時間の変化	43
(29)	コンピューターゲームをする時間の変化	43

## その他

(30)	義務教育段階の児童生徒就学状況(平成19年度)	44
(31)	年次別、特別支援学級在籍児童生徒数	44
(32)	身体障害児(18歳未満)の原因(平成18年)	45
(33)	身体障害児(18歳未満)の原因疾患(平成18年)	45
(34)	年次別、小児慢性特定疾患治療研究事業の給付人数	46
(35)	乳児の月齢別、栄養状況	47
(36)	学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症等	48

## II.環境に関する統計

## ダイオキシン

(37)	年次別、血液中ダイオキシン類濃度	50
(38)	年齢と血液中ダイオキシン類濃度の関係	50
(39)	地区別、血液中ダイオキシン類濃度	51
(40)	地域別、血液中ダイオキシン類濃度	51

(41)	性別、血液中ダイオキシン類濃度	52
(42)	出産回数別、血液中ダイオキシン類濃度	52
(43)	授乳形態別、血液中ダイオキシン類濃度	52
(44)	日本人が1日に摂取するダイオキシン類の平均的な摂取量の内訳	53
(45)	年次別、母乳中のダイオキシン類濃度	53
<b>大気環境</b>		
(46)	年次別、大気環境の環境基準達成率	54
(47)	光化学オキシダント 注意報レベル以上の濃度が出現した日数(平成18年度)	55
(48)	健康項目の環境基準達成状況(平成19年度)	56
<b>水質環境</b>		
(49)	公共用水域における要監視項目の指針値超過状況(平成19年度)	57
(50)	鉛の環境基準値超過地点(平成19年度)	58
(51)	砒素の環境基準値超過地点(平成19年度)	59
<b>化学物質環境実態調査</b>		
(52)	POPs及びHCH類	60
<b>化学物質の排出量の推移</b>		
(53)	年次別、鉛、砒素及びベンゼンの排出量	62
<b>スギ・ヒノキの花粉</b>		
(54)	スギの花粉総飛散マップ	64
(55)	ヒノキの花粉総飛散マップ	66

### Ⅲ.保健に関する統計(参考資料)

<b>人口</b>		
(56)	15歳未満の年齢別人口(平成17年)	70
(57)	都道府県別、15歳未満人口の割合(平成17年)	71
<b>出生</b>		
(58)	年次別、出生数と合計特殊出生率	72
(59)	年次別、自然死産率及び人工死産率	73
(60)	年次別、乳児死亡率及び新生児死亡率	73
(61)	都道府県別、合計特殊出生率(平成19年)	74
(62)	都道府県別、自然死産率及び人工死産率(平成19年)	75
(63)	年次別、出生順別にみた出生数の割合	76
(64)	夫婦の理想子ども数	76
(65)	年次別、母親の平均出産年齢	77
(66)	都道府県別、母親の平均出産年齢(平成19年)	78
<b>死亡</b>		
(67)	年次別、年齢階級別、児童死亡率	79
<b>身長と体重</b>		
(68)	年次別、乳幼児の身長と体重	80
(69)	年次別、子どもの身長と体重	81
<b>諸外国</b>		
(70)	諸外国の合計特殊出生率	82

### Ⅳ.環境に関する統計(参考資料)

<b>喫煙・飲酒の習慣</b>		
(71)	年次別、年齢階級別、喫煙習慣のある者の割合	84
(72)	年次別、年齢階級別、飲酒習慣のある者の割合	85

## I. Statistics Concerning Health

<b>Birthweight</b>	
(1)	Birthweight by year .....10
(2)	Mean birthweight by prefecture, 2007-1997.....12
(3)	Percentage of births under 2,500g by prefecture, 2007-1997.....13
<b>Sex Ratio</b>	
(4)	Sex ratio by year .....14
(5)	Sex ratio by prefecture, 2007-1997.....15
<b>Assisted reproductive technologies</b>	
(6)	Number of births using assisted reproductive technologies by year .....16
<b>Percentage of Twin Births</b>	
(7)	Percentage of twin births by number of deliveries by year .....16
(8)	Percentage of twin births by number of deliveries by prefecture, 2007-1997.....17
<b>The rates of estimated patients</b>	
(9)	The rates of estimated patients per 100,000 population by year and age .....18
<b>Congenital Anomalies</b>	
(10)	Prevalence rate of congenital malformations, 2006.....22
(11)	Prevalence rate of congenital anomalies by year.....23
(12)	Surgical neonatal cases by year .....26
<b>School Health</b>	
(13)	Percentage of schoolchildren with asthma by year.....28
(14)	Percentage of schoolchildren with abnormal electrocardiogram by year .....28
(15)	Percentage of schoolchildren with Detection of urinary sugar by year .....29
(16)	Percentage of schoolchildren with renal disease by year.....30
(17)	Rate of schoolchildren with a tendency toward obesity.....31
(18)	Rate of schoolchildren with a tendency toward slimming .....31
(19)	Percentage of schoolchildren with Asthma by prefecture, 2007.....32
(20)	Percentage of schoolchildren with Atopic dermatitis by prefecture, 2007.....33
(21)	Percentage of schoolchildren with Abnormal electrocardiogram by prefecture, 2007.....34
(22)	Rate of schoolchildren with a tendency toward obesity by prefecture, 2007.....35
(23)	Rate of schoolchildren with a tendency toward slimming by prefecture, 2007 .....36
(24)	Incidence of diseases and anomalies by age, 2007 .....37
(25)	Incidence of diseases and anomalies by size of city .....38
<b>Longitudinal survey of babies in 21 st century</b>	
(26)	Changes in diseases contracted over 1 year.....40
(27)	Changes in sibling patterns.....42
(28)	Changes in hours watching television .....43
(29)	Changes in time playing computer games.....43
<b>Others</b>	
(30)	School attendance at the compulsory education stage, 2007.....44
(31)	Children enrolled in special education classes by year .....44
(32)	Causes of childhood disability, 2006.....45
(33)	Causative disorders of childhood disability, 2006 .....45
(34)	Beneficiaries of medical aid program for chronic pediatric diseases by year.....46
(35)	Nutritional situation of infants by age in months.....47
(36)	Learning disability, attention-deficit hyperactivity disorder, high-functioning autism etc.....48

## II. Statistics on Environment

<b>Dioxin</b>	
(37)	Blood dioxin concentration by year .....50
(38)	Relationship between age and blood dioxin concentration .....50
(39)	Blood dioxin concentration by type of areas .....51
(40)	Blood dioxin concentration by region .....51
(41)	Blood dioxin concentration by gender .....52

(42)	Blood dioxin concentration by childbearing frequency.....	52
(43)	Blood dioxin concentration by type of feeding.....	52
(44)	Breakdown of the average daily intake of dioxins by Japanese people, 2005.....	53
(45)	Trend of dioxin concentration in breast milk by year.....	53
<b>Atmospheric Environment</b>		
(46)	Rate of achievement of atmospheric environment standards by year, 2006.....	54
(47)	Photochemical oxidant.....	55
<b>Water Environment</b>		
(48)	Rate of achievement of environmental standards relating to health 2007.....	56
(49)	Cases where monitored items concerning public water exceed the guideline values, 2007.....	57
(50)	Locations with levels of lead(Pb) in excess of the environmental standards.....	58
(51)	Locations with levels of arsenic(As) in excess of the environmental standards.....	59
<b>Environmental Survey of Chemical Substances</b>		
(52)	Persistent organic pollutants (POPs) and hexachlorocyclohexanes (HCHs).....	62
<b>Trend in Emissions of Chemicals</b>		
(53)	Emissions of lead, arsenic, and benzene by year.....	64
<b>Japanese Cedar and Cypress Pollen</b>		
(54)	Map of Japanese cedar pollen dispersal.....	64
(55)	Map of Japanese cypress pollen dispersal.....	66

### III. Statistics Concerning Health (Reference)

#### Population

(56)	Population by age, under 15, 2005.....	70
(57)	Percentage of population under age 15 by prefecture, 2005.....	71

#### Live Births

(58)	Number of births and total fertility rate by year.....	72
(59)	Spontaneous fetal death rate and artificial fetal death rate by year.....	73
(60)	Infant mortality rate and neonatal mortality rate by year.....	73
(61)	Number of total fertility rate by prefecture, 2007.....	74
(62)	Spontaneous fetal death rate and artificial fetal death rate by prefecture, 2007.....	75
(63)	Percentage of births by birth order by year.....	76
(64)	Ideal number of children for married couples.....	76
(65)	Average child-bearing age by year.....	77
(66)	Average child-bearing age by prefecture, 2007.....	78

#### Deaths

(67)	Child death rates by year and age.....	79
------	--	----

#### Weight and Height

(68)	Weight and height of infants by year.....	80
(69)	Weight and height of children by year.....	81

#### Other Countries

(70)	Total fertility rate in other countries.....	82
------	--	----

### IV. Statistics Concerning the Environment (Reference)

#### Smoking and Drinking Habits

(71)	Smoking by year and age.....	84
(72)	Drinking by year and age.....	85

本書で用いた統計資料の概要は以下のとおりである。

#### 「人口動態統計」

我が国の人口動態事象を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的とする調査である。「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を対象とし、市区町村長が、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の届書に基づいて人口動態調査票を作成する。

平成19年の調査期間は、平成19年1月1日～平成19年12月31日である。

#### 「外表奇形等統計調査」「国際先天異常監視調査機構 (ICBDSR) 年次報告」

昭和47年から全国的な規模で開始され、日本の総出産児のおおよそ10%にあたる児を、病院ベースで、先天異常モニタリングを行っている。北海道から沖縄にわたるこれらの協力施設には、個人医院からいわゆる三次病院にいたるさまざまな分娩施設が含まれている。

平成18年調査では、平成18年1月1日より平成18年12月31日までに出産した外表奇形等について行った。なお、各施設より報告されたもののうち、妊娠22週未満の出生児および明らかに外表奇形でないと考えられるものについては本統計より除外している。

#### 「患者調査」

医療施設（病院及び診療所）を利用する患者について、その傷病状況等の実態を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的として3年周期で実施している。

全国の医療施設を利用する患者を対象とし、層化無作為により抽出した医療施設における患者を調査の客体として、調査の期日は、平成17年調査では、病院については17年10月18日～20日（火～木）の3日間のうち病院ごとに指定した1日とし、診療所については17年10月18日（火）、19日（水）、21日（金）の3日間のうち診療所ごとに指定した1日とした。また、退院患者については、平成17年9月1日～30日までの1か月間とした。

上記期日における患者についての性別、生年月日、住所、入院・外来の種別、受療の状況などを調査している。

#### 「学校保健統計」

学校における児童、生徒及び幼児の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする調査である。調査の範囲は、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び幼稚園のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）とし、調査の対象は、調査実施校に在籍する満5歳から17歳（4月1日現在）までの児童、生徒及び幼児（以下「児童等」という。）の一部である。

調査事項は、①児童等の発育状態（身長、体重及び座高）、②児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無及び結核に関する検診の結果）である。

平成19年調査は、平成19年4月1日から6月30日の間に実施された。

#### 「21世紀出生児縦断調査」

21世紀の初年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、少子化対策等厚生労働行政施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的とする調査である。同一客体を長年にわたって追跡調査する縦断調査として、平成13年度から実施を開始した。

調査対象は、全国の2001年1月10日から17日の間及び7月10日から17日の間に出生した子を対象とし、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。双子、三つ子についてもそれぞれの子を対象としている。

### 「国勢調査」

我が国の人口の状況を明らかにするため、大正9年以来ほぼ5年ごとに行われている調査である。国勢調査は、大正9年を初めとする10年ごとの大規模調査と、その中間年の簡易調査とに大別され、その差異は、主として調査事項の数にある。平成17年国勢調査はその18回目の簡易調査に当たり、平成17年10月1日午前零時現在によって行われた。

### 「身体障害児・者実態調査結果」

在宅身体障害児・者の生活の実情とニーズを把握し、今後における身体障害児・者福祉行政の企画・推進のための基礎資料を得ることを目的として、5年に一度実施している調査である。

### 「乳幼児栄養調査」

全国の乳幼児の栄養方法及び食事の状況等の実態を把握することにより、母乳育児の推進や乳幼児の食生活の改善のための基礎資料を得ることを目的とする調査である。

平成17年調査は、全国の4歳未満(平成17年5月31日現在)の乳幼児及び乳幼児のいる世帯を対象として、平成17年国民生活基礎調査により設定された単位区から抽出した2,000単位区内の4歳未満児(約3,500人)及びその乳幼児のいる世帯(約3,000世帯)を客体とした。調査事項は母乳育児(授乳)及び離乳食・幼児食の現状、子どもの生活習慣、健康状態等、調査時期は、平成17年9月中の1日であった。

### 「乳幼児身体発育調査」

全国的に乳幼児の身体発育の状態を調査し、新たに我が国の乳幼児の身体発育値を定めて、乳幼児保健指導の改善に資することを目的とした調査である。一般調査と病院調査の2種類が実施されている。

一般調査では、平成7年国勢調査地区のなかの3,000地区内の調査実施日において生後14日以上2歳未満の乳幼児、及び3,000地区のうちから抽出した900地区内の2歳以上の小学校就学前の幼児を調査の客体とした。調査時期は、平成12年9月1日から30日までの期間中に、保健所の所長が日を定めて行った。

病院調査では、全国の産科病床を有する病院のうち、平成12年医療施設基本ファイルから抽出した146病院で出生し、平成12年9月中にいわゆる1か月健診を受診した乳幼児を調査の客体とした。調査時期は、平成12年9月1日から30日までの期間に行った。

### 「日本人におけるダイオキシン類の蓄積量について」

日本人の体内中ダイオキシン類の蓄積状況を把握することを目的に環境省が実施している。

調査方法は、全国を5つの調査対象地域にブロック分けし、各調査対象地域において毎年1つの都道府県を選定した。また、都道府県内には、3つの地区(都市、農村、漁村)を設定して調査対象地区とした。調査対象地区内において、15～70歳で調査対象地区内の居住が長い住民の方を公募し、調査対象者とした。

### 【平成 18 年度大気汚染状況報告書】

大気汚染の常時監視調査結果をとりまとめた報告書である。大気汚染の常時監視は、都道府県等において継続的に大気汚染に係る測定を実施することにより、地域における大気汚染に関する緊急時の措置、大気環境や発生源の状況及び高濃度地域の把握、汚染防止対策の効果の把握等を行うとともに、全国的な汚染動向、汚染に係る経年変化等を把握し、もって大気汚染防止対策の基礎資料とすることを目的としている。「大気汚染防止法」に基づき実施されている。

### 【平成 19 年度公共用水域水質測定結果】

公共用水域の水質を常時監視することを目的とする調査であり、「水質汚濁防止法」の規定に基づき、水質汚濁に係る環境基準が定められている項目を中心に、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って昭和46年度から実施されている。

### 【平成 17 年度化学物質環境実態調査 モニタリング調査】

一般環境中の既存化学物質の残留状況の把握を目的とする調査であり、「初期環境調査」、「詳細環境調査」及び「モニタリング調査」という目的別の調査から構成されている。そのうち、モニタリング調査は、POPs 条約の対象物質及びその候補となる可能性のある物質並びに化審法の特定化学物質及び監視化学物質等のうち、環境残留性が高く環境残留実態の推移の把握が必要な物質を経年的に調査することを目的とした調査である。「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」制定時の附帯決議を踏まえ、昭和49年度から実施されている。

### 【PRTRデータの概要】

事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することを目的とした「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づきPRTR制度が導入された。PRTR (Pollutant Release and Transfer Register制度 (化学物質排出移動量届出制度)は、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所から環境(大気、水、土壌)への排出量及び廃棄物に含まれての事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度である。

### 【国民健康・栄養調査】

健康増進法に基づき、国民の身体の状態、栄養摂取量及び生活習慣の状態を明らかにし、国民の健康増進の総合的な推進を図るための基礎資料を得ることを目的とする調査である。平成20年国民生活基礎調査により設定された単位区から無作為抽出した300単位区内の世帯及び当該世帯の1歳以上の世帯員を調査客体とし、身体状況調査、栄養摂取状況調査、生活習慣調査を行っている。